

令和7年度 矢田南中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

●全国学力・学習状況調査結果【成果と課題】

〈国語〉「話すこと・聞くこと」(全国53.2%、本校54.8%)、「読むこと」(全国62.3%、本校61.9%)の領域においては全国と比較して上回っていたり、下回っていたとしてもわずかな差であったが、「書くこと」(全国52.8%、本校41.0%)の領域においては大きな隔たりがあった。

〈数学〉「関数」(全国48.2%、本校44.4%)、「データの活用」(全国58.6%、本校52.4%)の領域においては全国と比較してわずかに下回る結果であったが、「数と式」(全国43.5%、本校37.1%)、「図形」(全国46.5%、本校35.7%)の領域においては大きな隔たりがあった。

〈理科〉「エネルギー」(全国94.6%、本校100%)、「地球」(全国31.8%、本校42.1%)の領域においては全国と比較して上回っていた結果であったが、「粒子」(全国44.9%、本校21.1%)の領域においては大きな隔たりがあった。

【今後に向けて】

〈国語〉「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の領域に関しては、様々なテーマで文章を書き、考えをまとめる経験を積み重ねることで、思考力・判断力・具現力等の力を高めたい。

〈数学〉「関数」、「データの活用」の領域に関しては今まで通り演習を重点的に行い、基礎力の定着と応用力の習得を目指したい。また「数と式」の領域は、日常の学習では出来ていることが多いので、さらに定着するように取り組みたい。「図形」の領域は生徒の習熟度に応じた教材を使って習得させたい。

〈理科〉「地球」の領域に関しては、身近な事象を選択できる生徒が少なかったので、「地球」の領域に限らず、学習内容と身近な例を結びつけるようにする。「粒子」の領域に関しては、元素記号の復習を行う。

●チャレンジテスト(3年生)【成果と課題】

〈国語〉「情報の扱い方に関する事項」(大阪府6.4%、本校6.9%)、「書くこと」(大阪府9.9%、本校10.4%)の領域においては大阪府平均を上回った。その他の領域においては下回る結果となったが、わずかな差であるものが多かった。

〈社会〉「選択式」(大阪府42%、本校44.1%)に関しては大阪府平均を上回っていたが、「短答式」(大阪府7.8%、本校7.3%)、「記述式」(大阪府1.5%、本校1.2%)に関しては大阪府平均を下回る結果となった。

〈数学〉「数と式」(大阪府16.0%、本校16.1%)、「図形」(大阪府16.9%、本校17.4%)、「関数」(大阪府11.7%、本校12.9%)の領域において、大阪府平均よりも上回っていた。

〈理科〉「エネルギー」(大阪府8.1%、本校8.2%)の領域においてはわずかに大阪府平均を上回っていたが、「地球」(大阪府9.2%、本校7.2%)の領域においては大きな隔たりがあった。

〈英語〉結果として大阪府平均を2.4ポイント上回っており、総合的に良かったが「書くこと」の領域が唯一、大阪府平均を下回っていた。

【今後に向けて】

〈国語〉「知識及び技能」の領域に関しては、さまざまな種類の文章を読んだり演習を多く行い、力を定着させたい。

〈社会〉引き続き「書くこと」を意識した授業づくりを心がける。一問一答の小テストで基礎的な知識を身につけ、授業では毎回資料を用いて自分の考えを文章化することに注力する。

〈数学〉基本的な学習に関しては今まで通り演習を重点的に行い、基礎力の定着を目指したい。そして大阪府平均を下回っていた「思考・判断・表現」を重点的に学習していきたい。

〈理科〉全体的に「思考・判断・表現」に関する問題や記述式の平均点が低かったので、入試の過去問題から類似問題を選んで取り組む。

〈英語〉基本の動詞を中心に、第1～第3文型までの簡単な英文を書いて表現させる練習を行い、書くことに対する苦手意識を取り除くよう努める。